

全日本育成会「手をつなぐ」

1999年5月号より

幼い頃の様子とかかわり方

## 行動障害 という 見方を変える

# プラス思考が自立に役立つ

「手をつなぐ」編集委員

明石洋子

一九七二年一月二十九日、玉のような丸々太った男の子。育児書通りの成長、しかも利口そうな顔立ち。なのに言葉がでない、目をあわせない、横目で物を見る、奇妙な儀式をする、数字や水やトイレに異常な興味を示す……。何を考えているのだろうか、どうして言うことを聞いてくれないのだろうか、「私がママよ」と訴えても知らんぷり。親なのに我が子が何を感じているのかさえ理解できず、悩み焦り悲しむ日々でした。さらにだんだん大きくなるにしたがつて、こだわりも家の中より外に向かい、次男の授乳等ちょっと目を放したすきに、嚴重に鍵をかけたドアも上手に開けて、素早く逃げだし、隣近所でしたずらばかり。「おたくはどんなしつけをしているんですか」としかられ、私はただただ頭を下げるだけ。でもお店に入つて物（たべものや洗剤や薬等）を取るから、近所中のトイレ探検をするから、庭からホースで通行人に水をかけるからといって、家の中に閉じ込めるわけにはいきません。そうしたらいつまでも家から一歩も出れず、親に体力がなくなつたら、即入所施設に隔離保護となるでしょう。

### 生きるすべは地域でこそ

地域で生きるすべは地域に飛び出してこそ学べます。障害が重ければ、より多くのニーズがあり、地域での支援もたくさん必要となります。いたずらも迷子も「迷惑はお互い様よ」と少しは周りが大目に見てくれるうちから、社会のルールや人との接し方を、きちんと正しく教えておきたいと思いました。大人になつて急に地域には、双方が戸惑いますから。

当時重度（療育手帳A）の自閉症児、しかも「親の子育てのまずさが原因」といった誤解の多い病名でしたので、親への非難や辛らつな質問、奇異なものを見るまなざしは、親の地域に飛び出す勇気を萎えさせはしましたが、しかし自閉症はどこかに預けて治る病気ではない以上、地域の中で生きる場を広げ、自立する力をつけること以外、我が子の幸せな人生は保障されなれないと思ひましたから、「地域の中でも」を子育ての方針としました。

問題行動と言われた、水やトイレや数字等へのこだわりを初めは取り除こうと何度も試みました。しかし私の「だめ！」という否定的態度は本人に一層の混乱を引き起こし、パニックに陥るだけ。障害ゆえにできないことがあるのを気づかず、普通の子にしようとして、必死に教え、パニックの対応に疲れてしまった私は、しかたなくこだわりを丸ごと受け入れざるをえませんでした。

ところがこれは肯定的にプラス思考すれば、けっこう自立に役立ちます。こだわっている事象に対しては、瞳は生き生き、まさに好奇心旺盛、活力も集中力もあるわけですね。こだわる遊びの世界から、意味ある行動へと、苦手な言葉に頼らず視覚的に彼が理解できる手順で工夫し、「できたね。えらいね。ありがとう」と褒めながら、特性を生かした役立つ仕事につなげました。こうしてトイレ掃除や風呂掃除さらに料理や洗濯等、自立に必要なスキルを獲得できました。今ではトイレ探検をしてしかられたお店が、「トイレ掃除のお礼」とケーキとコーヒのサービスをしてくれます。また、これもこだわりか、



一度覚えたものは例外なく完べきにやりますので、表裏のない働きぶりが信用され、職業となり、楽しく生き生きと働いています。

### ハプニングをチャンスに変えて

幼児期からの超多動も、「好奇心の表れ」とプラス思考し、お店に入っては勝手に物を食べたり取ったりした時期も、彼が地域との関係を作っていると思うようにしました。ただトラブルになって地域から追い出されないよう、迷惑をかけるたびに、私は正直に説明し誠実に対応しました。それが地域での支援者を増やすこととなり、顔なじみになったお店で彼は物とお金を交換すること（買い物）を学びました。不変の記号としてこだわった数字が、買い物することで、意味をもつ数にと概念が形成されました。

次に物は取らなくなった代わりにお金を取るようになったときは、お友達や学校、地域の人々に「今徹之はお金が自分の欲しいものと交換できることを覚えたばかりで、そのお金がどうすれば手に入るか学習していません。しばらくはお金の管理をよろしく」とお願いして、お金を先ほどのトイレ風呂掃除等の家事手伝いの報酬として渡すことにしました。それが結果として労働意欲を引き出すことにもなりました。このように地域の方々と巻き込んだ、突然遭遇する数々のハプニングが、彼を成長させ、また周りに感動を与え、協力が年々増えていきました。こだわりの問題行動をプラス思考したことによって、ずいぶん子育てが楽になり、彼の地域での暮らしも豊かにすることができたようです。

### 接し方を変えてみよう

足の不自由な人に「歩け」と言わないで、「車イス」を用意するように、自閉症ゆえできないことを十分理解し、その部分は特訓するのでなく支援の方策を考え、できることや得意なことを自立に役立つよう伸ばしてあげること、そのためには本人の意思や気持ちやサインを読み取り、またその場ですべき正しい行動を伝えること、このようなかわり方をすれば問題行動は起きないのではないのでしょうか。言葉でのコミュニケーションができないから、意思を伝えられずにさせてもらえず、また相手の期待することも、上手に理解できるように教えてもらってないから、どうすればよいかわからない。それなのに相手からは「言うことを聞かない、困った奴」と思われ、大きな声で指示される、そんな日常ではだれだって強い不安とストレスで混乱してしまいます。そうすると強度行動障害という自閉症特有の問題行動となつて、あたかも本人の障害のせいのように思われ、「自閉症は扱いにくい」と言われてしまいます。問題行動を彼らが起こすのは、かかわる周りの人の対応の悪さ、すなわち周りの責任ではないのでしょうか。正しい行動を的確に教えていけば、行動障害と言われるものは自然に減ってくるようです。原因（せざるをえない気持ち）を考え、周りの接し方を変えてほしいですね。問題行動は本人の責任ではないと思います。どなたたりたいたたりして本人を責めないでください。何の解決にもなりません。本人が一番つらい思いをしているのですから。